SDGsで地域の環境を守ろう

~地域で活動するNPOのためのSDGs活用ガイド~















はじめに

エスディージース

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、国連加盟国と多様な組織、人々によってつくられ、2015年の国連総会にて採択されました。世界中の誰もが力を合わせて、地球上の自然の恵みを大切にし、人権が尊重され、すべての人が豊かさを感じられる平和な世界をつくろう、というビジョンを掲げています。

この目標達成に向けて、各国・各主体が積極的に取り組むことが約束されました。政府、 地方自治体や企業、諸団体、市民一人ひとりにも役割があり、またそれぞれがパートナー シップを築き、協力・連携しあうことが求められています。

SDGsが持続可能な社会を創るための共通言語として認識されている昨今、この冊子では、おもに地域で活動している市民団体・NPOの皆さんが、どのようにSDGsを捉え、活用すれば、活動の活性化やパートナーシップの促進につながるかを検討できるように作成しました。

全国さまざまな地域における人々の知恵や活動、仕組み、パートナーシップによって、豊かな自然や環境が守られ、活動の成果・結果としてSDGs達成が実現できるよう、この冊子を活用していただければ幸いです。

CONTENTS

SDGs達成にむけたNPOの役割	4
SDGsの概要 ····································	5
SDGs策定の背景・経緯(NGO・市民社会が参加したプロセス) ····································	6
SDGsの特徴 その1 環境問題やさまざまな課題とのつながり	7
SDGsの特徴 その2 取り組む意義と可能性	8
SDGsの特徴 その3 パートナーシップで実現する	9
事例紹介: 地域の実践からSDGsを捉える	
・世界につながる海ごみ、川ごみ問題 NPO法人プロジェクト保津川	10
・世代を超えて美しい棚田を守る NPO法人棚田LOVER's	12
SDGsの取組を始めるためのQ&A ······	14
SDGsワーク ·····	16
参考情報	21

SDGs達成にむけたNPOの役割

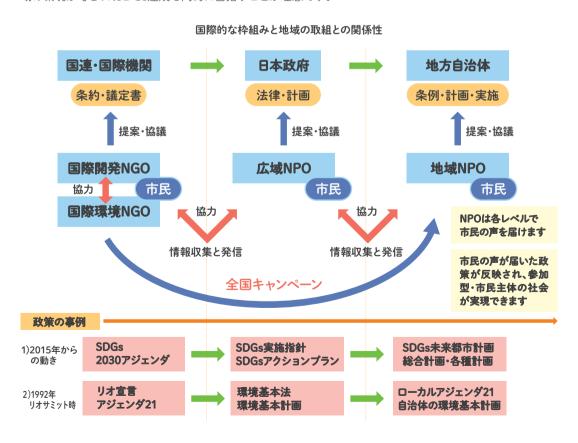
国際的なNGOの中にはSDGs策定に積極的に関わったNGOがあります。それらの主張の中には、「市民社会の役割」をはじめ、「市民参加」、「ジェンダー平等」、「若者の役割」、「情報へのアクセス」そして「パートナーシップ」の重要性などが含まれていました。これらは「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」(略称2030アジェンダ)の宣言文やSDGsの目標の中にも入っておりNGO活動の成果とも言えるでしょう。

NPOは企業や行政などのセクター、あるいは地域と地域の境界など、あらゆる"境界線"を超え、課題やテーマについて取組を進められることが強みです。その意味において、SDGs達成にとって重要な"課題どうしのつながり"、"相互連関性"を意識して取組を行う"コーディネーター役"を担うことができます。また、NPOは一つの課題に対して、その根本問題を掘り下げたり、周辺にある課題と資源を見直して提示するなど、課題を俯瞰する力や、ステークホルダーの関心内容や事情を理解・共有したり、将来像、解決策を描くなど、共通の目標に向かって人や組織をリードする役割を担うこともできます。このようなプロセスにおいて、今までの決まった分野の中だけでは会うことのなかった人たちとの出会いやアイデア、資源を見出すことにつながるでしょう。

SDGsの達成に貢献しようとする企業とは、その目標を共有することで、新たな協働取組が期待されます。

他にも専門的知識と一般的な情報とのつなぎ役や、異分野・他セクターとの連携、政策提言と現場活動の促進の両輪で相乗効果を上げるなどが期待されます。

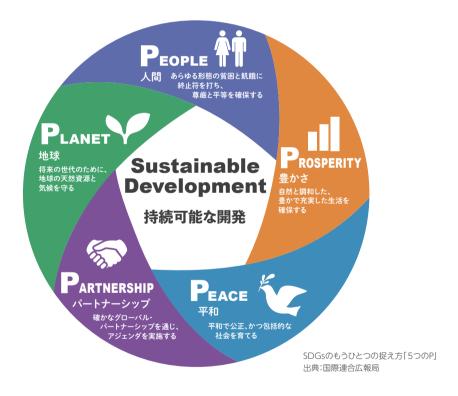
下の図にあるように、地域のNPOと国際的なNGOの連携も重要です。地域では地域に精通したNPOが情報を得て活動し、その現場の声を全国や国際規模で発信し、市民の声として拡張していくなどの連携ができると、市民に寄り添った政策実現も可能になります。このように地域のNPOと国際的なNGOの連携によって地域の環境が守られ、SDGs達成も同時に目指すことが理想です。



SDGsの概要

SDGsは2015年の国連総会で採択された2030アジェンダの一部分になります。2030アジェンダは、前文、宣言、SDGsとターゲット、実施手段とグローバルパートナーシップ、フォローアップとレビューの大きく5つのパートから構成されています。

「このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である」から始まる2030アジェンダは、全体にまたがるスローガンに「誰一人取り残さない」を掲げ、持続可能な開発を構成する大事な要素を5つ(人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップ)に整理しています。そして、この持続可能な開発を具体的に実現するために設定された、貧困や教育、水、労働や産業、環境などを含んだ17の目標、さらに細分化されたターゲットが書かれた169の項目がSDGsと呼ばれます。そして、SDGsを絵に描いた餅にしないための、パートナーシップを主軸とした実施手段と進捗評価がその後に続きます。



SDGsとは

- 2015年9月、国連総会にて全加盟国の賛同により採択
- 先進国・途上国すべての国を対象とする普遍的なもの
- SDGs提案の背景: 人間の生存はあくまで健全な地球環境が基盤
- 持続可能性の観点を開発目標に組み込む必要性(サステナビリティの追究)
- 17テーマ、169項目で構成(多くの意見を反映)
- 5つのP(人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップ)
- 誰一人取り残さない Leave no one behind.

SDGs策定の背景・経緯(NGO・市民社会が参加したプロセス)

第二次世界大戦後、日本や欧米での急激な経済発展に伴う公害問題の発生や、東西の政治的対立によって 紛争が絶えなかったことなどから、地球のあらゆるところで人命や自然環境が失われる事態に対処しなくては ならない状況がありました。国連では、このような地球規模での危機、脅威に対応するため様々な取組をしてき ました。

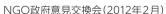
大きな出来事として挙げられるのは、1992年の「国連環境開発会議(地球サミット)」です。ここで現在のパリ協定につながる地球温暖化防止のための条約や、生物保護の条約といった、地球の健全性を守る条約が生まれました。またこれ以降に、人口・女性・居住といった個別課題への会議がたくさん行われるようになりました。

2000年には「国連ミレニアムサミット」が開催され、これを機に、主に世界の貧困や健康に対しての目標を設定したミレニアム開発目標(MDGs)がスタートしました。貧困削減にはある程度の成果は出ましたが、一方で地球温暖化や生物多様性の課題は依然として山積でした。これを受け、MDGsが2015年に終わる前に、次の目標を掲げようと、「地球サミット」から20年経った2012年の「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」においてSDGs策定プロセスが開始され、3年をかけてSDGsが2015年に策定されました。このような20年以上の経過を経て、SDGsができたのです。

このプロセスには、国連各機関によるコンサルテーション会合や地域会合が行われ、多くのNGO、市民社会組織の参加の機会がありました。日本ではリオ+20に向けて「リオ+20地球サミットNGO連絡会」が主に政府との対話の機会をつくり、それ以前にMDGsから取り組んでいたNGOを中心に作られた「ポスト2015NGOプラットフォーム」がその後の対話の場づくりに貢献し、のちに「SDGs市民社会ネットワーク」を結成するに至りました。

リオ+20関連の活動の様子







リオ+20地球サミットNGO連絡会幹事会

SDGsの特徴 その1 環境問題やさまざまな課題とのつながり

私たちの社会をとりまく様々な課題は、それぞれ独立したものではなく、有機的な関係性があります。そのため 17個の目標も相互に関連しています。その課題を17番目の「パートナーシップ」で解決していこうというのも SDGsの特徴の一つです。

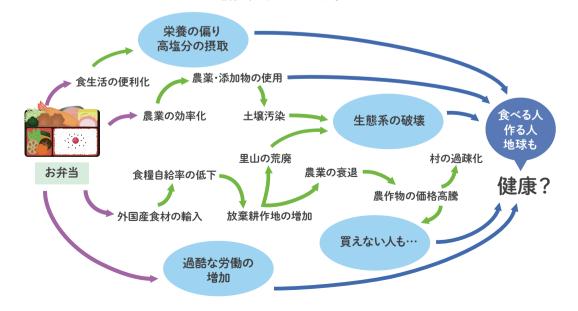
SDGsの17個の目標を見ると、ほとんどが環境課題につながっています。例えば、地球温暖化が進み自然災害が発生することで、人々はこれまで住んでいた場所を離れ、環境難民となる可能性があります。移動した先では民族対立や、貧困、差別などが生じ、それが紛争やテロを助長し社会不和につながるという負の連鎖が生まれることになります。野生生物たちは生息地を追いやられ、日本では鹿や猪が街に出てきて人間の暮らしを脅かす事態が起きていますが、アフリカでは数千億のバッタが大発生し、農業への被害によって約4,200万人が食糧危機に陥ると言われています。また、台風・豪雨の被害によって経済的損失は増大し、感染症や熱中症などの疾病の増加にもつながり、それが保険・疾療費を増大させ、教育など他に使われるべきお金が圧迫されることにつながります。

私たちとSDGsはつながっている

SDGsは国連が進めるもので自分にはあまり関係がない、と思われるかもしれませんが、本当にそうでしょうか。 例えば市販のお弁当を買うことは食生活の便利化につながりますが、食品によっては塩分や油分過多などで、健康がやや心配になるかもしれません。また、農産品を作る農業の過程では、農薬や化学肥料などによる生態系の破壊の可能性があります。他にも、食料を輸入していることを考えると、それが日本の食料自給率の低下につながり、さらには、耕作放棄地の増加、里山の荒廃、結果として"生態系の破壊"といったように、違うように見える課題から一つの共通した課題へとつながる可能性もあります。工場で深夜に働く人の労働環境が貧困や格差の課題につながっている可能性もあります。このように、お弁当一つをとっても、自分だけでなく社会の健康まで話が広がる可能性があります。

SDGsは国連が定めた目標ではありますが、自分の日々の暮らしや経済活動とも何かしらつながっているということを理解することで、もっと身近に感じることができるでしょう。

自分と社会のつながりを考える



SDGsの特徴 その2 取り組む意義と可能性

SDGsへの取組はグローバル企業や先進的な自治体による事例がすでに多く見られますが、なぜそのように進んでいるのでしょうか。

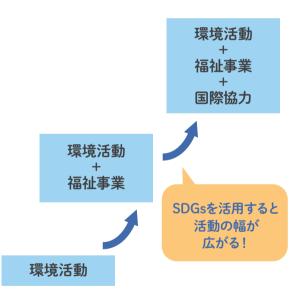
前述のようにSDGsはパートナーシップの重要性を掲げ、多くのステークホルダーの参加によって策定されたことで、関わった人や組織が主体的に動くようになったことが理由の一つとして挙げられます。また同時に、社会の持続可能性を考えた事業・活動にしなければ、経済的にも立ちゆかなくなるほどの危機的状況が目前に迫っているということも背景にあります。このため、会社や組織の存続の危機を回避するためにもSDGs達成に関わることが有効な選択肢として選ばれているのです。現在は、これまでのやり方では持続性は保証されない、社会・経済システムの文明史的変革期に来ていると言われています。大量生産・大量消費の"ワンウェイ経済社会"から"循環型で持続可能な社会"へ舵を切り替えるためにSDGsに取り組むことは大きな意義があります。これからの社会では"物質的欲求"から"質的欲求"へとモノへの価値観が変わり、"所有"よりも"共有"が良いとする"シェアリングエコノミー"への転換などの可能性が求められるでしょう。

またSDGsの達成に向けた取組はコストであるという考え方は薄らいでいくでしょう。SDGsに取り組むメリットの一つとしては、SDGsビジネスの市場機会が多く生まれており、世界全体で年間約12兆ドル(1,340兆円)(※2015年調査時点)もの市場規模が見込まれています。さらに労働の面では2030年までに約3億8000万人の雇用創出ができるという試算も出ています。このように社会問題に対応することができ、さらに新しい事業創出の機会としても見ることができます。

SDGsは、社会問題の全体像をつかむための "社会問題のカタログ"と言えます。

SDGsを活用することによって、取り組んでいる事業や関心ごとが、社会や世界とつながっているという実感が持てるようになり、活動と社会のニーズがマッチする展開のヒントを得ることができるかもしれません。

誰一人取り残さない、誰もが幸福になる地球と人々の未来を創るために、個人のレベルで、そして組織としてできること、やるべきことを、SDGsを参考にしながら探し出し、同時にSDGs達成に貢献できるようにあらゆる活動に前向きにチャレンジすることは、組織の発展、活動の活性化にもつながるでしょう。



了 SDGs活用のポイント

- 自治体・企業・NPOの共通言語
- 社会にある問題の全体像を知るカタログ
- ●活動に新しさが生まれる

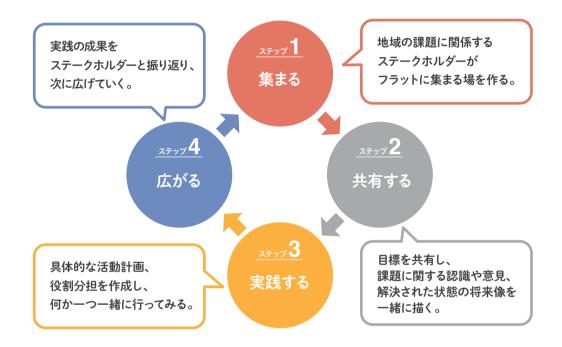
- ●活動のパートナーを増やす機会 環境×福祉×教育×災害×健康×安全
- ●事業創出の機会(経済性と社会性)

SDGsの特徴 その3 パートナーシップで実現する

SDGsの17番目の目標は「パートナーシップで目標を達成しよう」です。前述の通り、17番目の目標が独立して存在しているのではなく、その他の目標を達成する上でも「パートナーシップ」がSDGs全てに関わっているという考え方です。しかしながら、パートナーシップと一口にいっても、実態は多様であり、複雑です。

下の図はパートナーシップでの取組を作るステップを4つにまとめたものです。実際にはこの順番通りにいかない場合もありますが、これらのポイントをプロセスに組み込んでいくことが重要になります。

パートナーシップの作り方 4ステップ



地域の課題は環境、社会、経済の様々な要素が複雑 に絡み合って存在しています。広範な課題を解決する ためには、広範な関係者の連携が不可欠になります。

SDGsも同様に、17色をそれぞれ細切れに切り出してアクションを起こすだけではなく、一つの円として捉えることが重要です。その視点を実践することで、自ずと必要なステークホルダーとのパートナーシップが広がるでしょう。

SDGsは協働を広げる共通目標!



▶▶世界につながる海ごみ、川ごみ問題

地域の事例をお聞きしました!

② 団体プロフィール

団体名… 特定非営利活動法人プロジェクト保津川

設 立… 2007年7月

代表者… 原田禎夫さん

所在地… 京都府亀岡市追分町谷筋37-21 ふらっとHOUSE

URL··· https://hozugawa.org/

活動のこれまでと今

1300年の水運の歴史を持つ保津川(正式統一名称は桂川ですが、地区によって呼び名が異なる)流域では、2000年初頭より、プラスチック容器、ペットボトル飲料の利用が一般に広がるのに伴って河川に滞留するごみが増加してきました。

その後、地域の名物である保津川下りの若手船頭が最初1人でごみ拾いを始めたところから徐々に仲間が増え、2006年保津川下り400周年記念行事の一環で、多様な主体による協働清掃活動が行われ、「プロジェクト保津川」が設立されました。

清掃活動に加えて、GPSを活用したごみの分布や 種類把握といった調査を両輪に、さらに食や伝統、 ファッションといった、ごみ以外にも河川に関心を 持つ市民を増やすための取組も継続して行ってき ました。2020年3月には、日本初の「プラスチック 製レジ袋提供禁止条例」が亀岡市の市議会で全会 一致で可決・成立し、2021年1月1日より施行され、 プラごみ削減にむけた制度づくりも進んでいます。



ラフティングをしながらの清掃活動も企画



かめおかプラスチックごみゼロ宣言



保津川流域に流れ出るごみ

SDGsを知ってから

以前から川や海のごみが世界共通の課題であることを、国際会議を含む様々な会合に参加して感じていましたが、改めてSDGsという世界レベルの共通言語によってそのことを再確認しました。

少し意地悪な言い方をするとSDGsは「やって当たり前のこと」が書かれているのですが、自分たちの活動を後から承認してもらっていると感じられたことが大きかったです。

他方、SDGsを意識するメリットとして、ステークホルダーが新しく広がるということよりも、既存の関係性やつながりが強化されたと思います。たとえば、これまでもCSR・CSVの文脈でプラスチックごみ問題に対して協働していた企業も、SDGsがあることによって、社内外への説明が以前にもまして容易になったという効果があり、これら一つひとつの前進が全体で大きな力になっています。さらに、小中高校生、大学生などの若い世代にとってもはやSDGsはスタンダードになりつつあることから、彼・彼女ら世代と歩みを一緒にしようと思ったら自然とSDGsに触れざるを得ないと最近感じています。



次世代とのパートナーシップ (こども海ごみ探偵団)

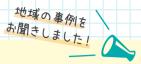
今後の展望・挑戦

SDGsはもちろん深刻な社会問題を意味していますが、明るい色とデザインの力で、大変な注目を 集めたと思います。社会問題解決に取り組むNPOも自分たち自身をアップデートするために利用でき るものはしていけばいいのではないかと思います。

"パートナーシップ"がSDGsに書かれていることの最も重要なことの一つだと思います。企業や行政との連携においては、清掃活動や環境教育等の何かしらの活動を一緒に行うことを大切にし、最初から100%完全なものを求めるわけではなく、お互いに出来ることから進めていくということを大切にしながら活動しています。

SDGsという、共有できるありたい未来に向かって、今日も現状から一歩でも社会がよくなるための 取組を保津川流域から発信しています。

▶▶ 世代を超えて美しい棚田を守る



∅ 団体プロフィール

団体名… 特定非営利活動法人 棚田LOVER's

設 立⋯ 2007年5月

代表者… 永菅裕一さん

所在地… 兵庫県神崎郡市川町谷915

URL··· http://tanadalove.com/

活動のこれまでと今

現在の日本の農村では耕作放棄された農地が増加しています。そして日本の食料自給率が約 40%と非常に低い中、「あと5年もすれば棚田がなくなってしまう」という声を聞き、「美しい棚田を将 来につなげたい」との思いのもと、団体を結成しました。

棚田は保水機能や洪水調節機能、地滑り防止機能など重要な役割を果たし、水田に生息する日本 固有の動植物を育む場としても貴重な働きをしているので、このような棚田を将来へつなげることを

使命として、54名の会員とともに活動を続けて います。

最近は棚田再生活動にとどまらず、市川町の 住民環境課の事業である婚活促進の企画で共 催したイベントを行ってカップル成立につなげる など、農村の活性化に役立つ事業ができるよう になってきています。



活動対象の棚田



稲刈り体験の様子



稲刈り体験の集合写真

SDGsを知ってから

他団体の行う講演会やセミナーで、活動の先進事例としてSDGsが取り上げられていたり、活動表彰 していただいた時にもSDGsの重要性について聞いたことで知りました。環境教育で言っていたことと 全てがつながると思い、また棚田のことも全て含まれると感じました。自団体の活動にどのように SDGsを取り入れようか考えましたが、新しいことを急に言い過ぎると混乱すると思い、あえてスタッ フ・理事とはすぐには共有したりせず、また中途半端はよくないので団体内でSDGsを示すタイミング を考えていますが、企業との協働の時には使うようにしています。同じ認識があることを示すことで相 手が安心したり、信頼してもらうことができるからです。

SDGsのことは、"命の大切さ"だと言うと伝わりやすいです。棚田保全、環境教育の推進につなげて 伝えるようにしています。社会にSDGsが広がっていくことは、自分のやっていることが間違ってなかっ たと確信できて嬉しく感じています。SDGsを知ってからはもっと応援してもらえるよう、真剣に取り組

もうと思うようになりました。国や 企業、公的機関が広めているので 説得性もあると思います。



企画した棚田婚活イベントの様子

今後の展望・挑戦

SDGsに取り組むことで新しく出会う人が増えました。毎年開催している「棚田フェス」には農村に 興味がある人だけではなく、いろいろな人が参加してくれるようになりました。

企業との協働には、もっとSDGsを使うと応援してもらいやすくなると感じています。一般向けに は、SDGsと言わなくても、後からSDGs達成につながったということを取り入れられたらと考えてい

実際に会員が増えたり、助成金が得られるなどのメリットがあるといいですが、今後SDGsの認知度 が上がれば、それに関わっている団体にはそのようなメリットも次第に出てくるのではないかと期待し ています。

自分たちの活動だけで余裕がなく、忙しくしていることが多いですが、イベント時に託児の団体と連 携したことで環境以外の問題に気付くなど、結果的にSDGs的になっているケースもあります。

SDGsの他のゴールにも着目して活動の幅、可能性を広げていきたいと考えています。

SDGsの取組を始めるための Q & (A)





SDGsの取組をこれから始めようと思っています。 自分たちに関連しそうなゴールだけを拾い上げても よいのでしょうか? よく聞く「SDGsウォッシュ」とは何でしょう?





「SDGsウォッシュ」とは、「グリーンウォッシュ(環境に配慮している取組に見せかけ て、実態はそうではなく、消費者を欺くような取組のこと)」という言葉を元に生まれ た言葉で、SDGsに真剣に取り組んでいるように見せかけて本質が伴っていないよ うな取組を指します。特に、17ゴールの中で、自分たちに直接関係しそうなものだけ 結びつけて満足してしまってはいけません。17ゴールはそれぞれ独立して存在をして いるのではなく相互に関係しあっているという「統合性」の考え方が重要です。

右図のように、あくまで一円として捉えながら、得意なゴー ルから広げていくようにしましょう。

そのために、まずSDGsの取組を始める時には、その背景や 前提となる考え方を理解するために「持続可能な開発のた めの2030アジェンダ:私たちの世界を変革する(2030ア ジェンダ)」を参照するのがよいと思います。





SDGsに取り組むことを周囲から期待されていますが、 資金や人材不足で新たなことに着手する余裕がありません。 取り組むにはどのようなことに留意すれば良いでしょうか。





"誰一人取り残さない"という精神や、パートナーシップを重視した活動になるよう 留意することに加え、SDGs達成には環境保全や社会福祉の充実だけでなく、経 済の視点も重要です。組織の基盤を支え、活動を維持するためにも組織運営を合 わせて考えながら取り組むことが望ましいでしょう。

活動内容の棚卸しをしてどのようなことがSDGs達成に近づけるか計画し (PLAN)、具体的な取組を検討・実施します(DO)。実施後、取組の評価をしたら (CHECK)、見直しや外部への発信を行います(ACT)。このようなPDCAサイクルで 活動の確認をすると、団体の活動全体を見直したりSDGs達成にどう貢献できるか といったヒントを得るなど、振り返る機会となって組織基盤を健全にすることにつ ながります。結果的に企業や行政などとの信頼関係やパートナーシップも作りやす くなり、資金や人材へのアクセスの改善も期待できます。



SDGsは日本も加盟する国連の取り決めですよね。 実施主体は国になるのであれば、 NPOの活動や企業の取組は どのように捉えられるのでしょうか?





2030アジェンダは国連総会で採択されたものであるため、基本となる実施主体は国 家になります。しかしながら、同時に2030アジェンダの中では、「すべての国、全てのス テークホルダー及び全ての人の参加」ということがこのアジェンダを実施するために 必要とされています。

現実社会を見渡しても、国を含む行政は公共の担い手の一つでしかありません。特に 少子高齢化が課題になる日本においては、共に公共を担う市民セクター、企業セク ターの重要性が今後ますます増大していきます。逆にこれまでセクター間の対話が 少なかった分野においても、共通言語としてのSDGsを使って同じ方向性を共有した 時に、それぞれの違いを力に変える可能性を持ち始めてきました。



SDGs の中身を詳しく見ていくと、 具体的なターゲットと指標があるようですが、 SDGsの目標が達成されたかどうかの評価は 誰がどのように行うのでしょうか?





国連本部で毎年開催されるハイレベル政治フォーラム(HLPF)に向けて、各国政府 はVNR(Voluntary National Review:ボランタリー国別レビュー)を作成します。各 国が、SDGsの進捗状況に関する自主的報告を行う国家主導の定期的レビューで進 捗を共有します。このように国連全体としては、2030年の約束年に向け、各国政府 が収集して得た統計データなどをもとに、世界的なSDGsの進捗状況を可視化してい

きます。また、持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN)とベルテルスマン財団も独自で国別の進捗状況を 評価したレポートを毎年公開しています。(右図)

世界規模ということもあり、評価も多様な主体が行っていま す。また、上述のHLPFに合わせて、企業セクターや市民セク ターもそれぞれの取り組みを評価しあう場づくりをしている ので、政府の統計を通じて以外にもアピールする機会はあり ます。



Sustainable Development Report 202

ワーク **①**

SDGsとのつながりを考えるためのワークを、 3つご紹介します。

ワークショップなどで活用してみてください。

ヮーク❶ 個人とSDGsのつながりを考える

自分の身のまわりのものとSDGsの関係性を見つけるためのワークです。

SDGsは遠い国連の話…と思われがちですが、自分の周辺のこととのつながりがあることを認識することで身近に感じられるようになるでしょう。同体のメンバーの皆さんとSDGsを理解するツールとして使ってみて下さい。

☑ ワークのステップ

1 身近なものからスタート

身近にあるもの(食べものや服、文房具、家電製品など)を中央に描き、それを使ったり作る時に起こることを近くに書きます。

2 問題の関連性を考える

そこから生じる問題や現象を隣に書き、●印でつなぎます。

7ページの図 を参考に…

3 一つのものをさまざまな角度からとらえる

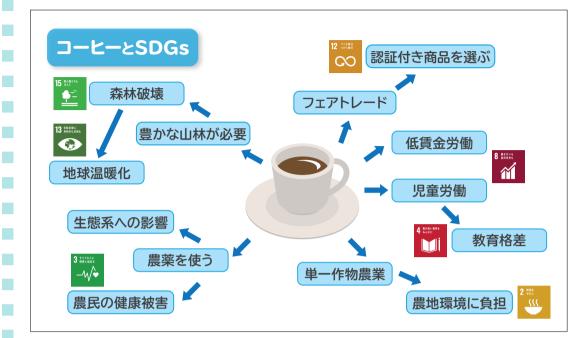
SDGsのゴールの番号またはアイコンを隣に書きます。 他の人はどうだったか、シートを見ながらシェアしてみましょう。

ワーク1の記入例 その1



ワーク **②**

ワーク1の記入例 その2



ワーク❷ 地域の課題とSDGsのつながりを考える



身近にある問題とSDGsのつながりについて考えるワークです。それらの課題や原因を探していくと、活動のヒントやパートナーとなり得る団体についてアイデアが出てきます。

☑ ワークのステップ

1 課題と原因の書き出し

● 暮らしや活動、仕事の中で気になっていること、問題だと思うことなどについてグループで話しながらポストイット(赤)に書きます。またその課題や原因についてポストイット(青)にキーワードや事例を書きます。

2 つながりとアイデア共有

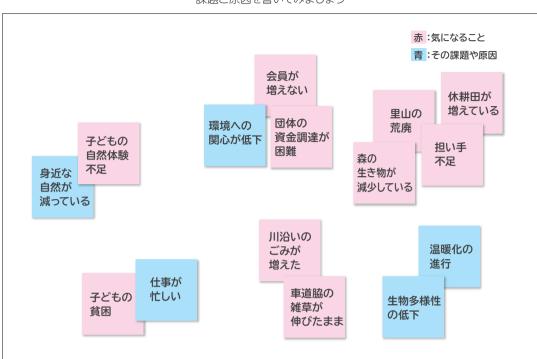
出てきた課題や原因に対してポストイット(黄)に、他の人と協働してできそうなことや、パートナーになりえる団体やセクターを書いてください。共通点のある課題や活動がないか→印でつなげて、それぞれの関係性やつながりを話し合いましょう。

3 全体共有・まとめ

- 関係があると思うSDGsのアイコンを貼り付けましょう。
- 他のグループとも内容を共有しましょう。

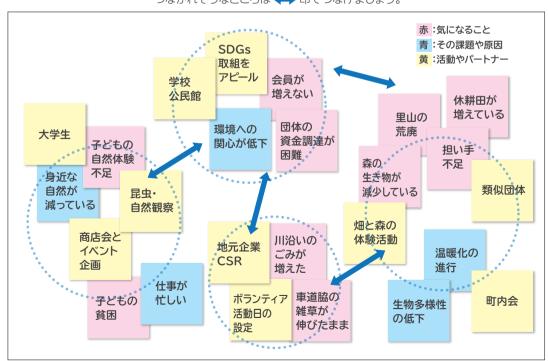
ステップ1 課題と原因の書き出し

課題と原因を書いてみましょう



ステップ2 つながりとアイデア共有

できることやパートナーについて書きましょう。 つながれそうなところは ◆◆ 印でつなげましょう。



ワーク



19

・ 活動の仲間・参加者を増やすヒント

参加する人の気持ちを想像しましょう

- 納得感・・・確かに必要なことだ SDGs達成につながる
- お得感…やったらイイことあるかな
- ●楽しみ…面白そう新しい出会いがありそう
- 道徳観・・・人のためになる やりがいがある
- 共 感・・・一緒にSDGs達成に取り組める



ヮ-ク③ 組織の活動とSDGsのつながりを考える

SDGsの達成につながるように、団体の活動を発展できるか考えてみましょう。継続した活動にするためには経済的視点も大切な要素です。中長期計画など今後の事業計画を考える上でも役立ちます。

☑ ワークのステップ

1 活動とSDGsとのつながりを見つける(Beforeの枠内)

現在担当している活動内容を書き、関連するSDGsのアイコン(左側)を線でつなぎます。

2 活動の発展性を考える(Afterの枠内)

SDGsに関連するように活動の変更点や改善点を考え、関連するSDGsのアイコン (右側)を線でつなぎます。

3 アイデアやパートナーと経済性の点検

改善するためのポイントやアイデア、パートナーを書き出します。 実現に向けた資金調達の方法やアイデアを書き出します。

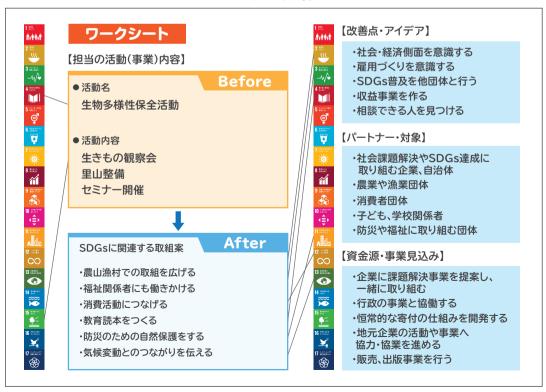
団体内部で共有し、実現に向けた取組を始めましょう!



ワーク3のブランクシート



ワーク3の記入例



参考情報

SDGsに関するさまざまな情報サイトやツールをご紹介します。

(※2020年12月時点の情報です)

環境省ローカルSDGs

-地域循環共生圏づくりプラットフォーム-

http://chiikijunkan.env.go.jp/

環境省が掲げる"地域循環共生圏(ローカルSDGs)"に関する様々な取組が集約されています。



地方創生SDGs官民連携プラットフォーム

https://future-city.go.jp/platform/

内閣府では、SDGsの国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として、地方創生SDGs官民連携プラットフォームを設置しています。



国際連合広報センター(UNIC)

https://www.unic.or.jp/

「SDGsを広めたい・教えたい方のための『虎の巻』」として、国連広報局が作成したプレゼンテーション資料の日本語版(パワーポイントスライド32枚)など役立つさまざまなツールが掲載されています。



SDGs市民社会ネットワーク

https://www.sdgs-japan.net/

SDGsの達成を目指し、その実現に取り組む約140団体が加盟している日本唯一の市民社会組織のネットワークです。

『基本解説 そうだったのか。SDGs 2020』の販売も行っています。



サステナビリティCSOフォーラム

https://sus-cso.com/

SDGsを地域づくりに生かすためのガイドブック『「パートナーシップでつくる私たちの世界/一国連の新しい目標-2030年に向けて一」』の販売もしています。(運営: (一社)環境パートナーシップ会議)



20

パートナーシップで取り組むことをサポートできる団体・拠点があります。

▶▶地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)

パートナーシップによって持続可能な社会の実現を目指す拠点として、1996年に環境庁(当時)と国連大学によって設立されました。全国8か所に設置されている環境パートナーシップオフィス(EPO)と連携しながら事業を展開しています。館内展示やセミナースペースの提供、機関誌の発行による情報発信などを行っています。

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F

TEL:03-3407-8107

http://www.geoc.jp/



▶▶環境省地方環境パートナーシップオフィス(地方EPO)

関係者内での対話を促したり、必要に応じて人材や資金、知識、技術、専門性に至るまでのあらゆる資源を探したりといった支援を行います。

お気軽にご連絡ください!



持続可能な開発目標 (SDGs)の詳細



あらゆる場所あらゆる形態の 貧困を終わらせる



飢餓を終わらせ、食料安全保 及び栄養の改善を実現し 持続可能な農業を促進する、



あらゆる年齢のすべての人々の 健康的な生活を確保し、福祉を促進する



すべての人に包摂的かつ公正な質の高い 教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



ジェンダー平等を達成し すべての女性及び女児の、 エンパワーメントを行う



すべての人々の水と衛生の利用可能性と 持続可能な管理を確保する



すべての人々の、安価かつ信頼できる 持続可能な近代的なエネルギーへの アクセスを確保する



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての 人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある 人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する



強朝 (レジリエント) なインフラ構築 包摂的かつ持続可能な産業化の促進、 及びイノベーションの推進を図る



国内及び各国家間の不平等を是正する



包摂的で安全かつ強靭 (レジリエント) で 持続可能な都市及び人間居住を実現する



持続可能な消費生産形態を確保する



気候変動及びその影響を軽減するための 緊急対策を講じる



持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を 保全し、持続可能な形で利用する



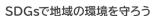
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠 化への対処ならびに土地の劣化の阻止・ 回復及び生物多様性の損失を阻止する



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



持続可能な開発のための実施手段を 強化し、グローバル・パートナーシップを 活性化する



~地域で活動するNPOのためのSDGs活用ガイド~

発行日 2021年1月

発行者 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC) 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F

TEL:03-3407-8107